

東陽病院

新院長に伊藤文憲医師就任

副院長に前田尚武医師

新任医師3人が着任・新体制でスタート

東陽病院では、大原啓介院長が3月31日付
 けで勇退され、新院長に伊藤文憲副院長（内科）
 が、副院長に前田尚武医師（外科）が就任しま
 した。

また、4月の定期人事異動で3人の医師が着
 任しました。なお、外科の曾川慶同医師は夷隅
 町の国吉病院へ、内科の巖俊医師は茨城県波崎
 町の鹿島労災病院へ異動になりました。



伊藤 文憲院長（内科）

院長あいさつ

光町の皆さんこんにちは。
 4月1日より組合立東陽病
 院の院長に就任いたしました。
 た。先代の大原院長の後任
 として精一杯頑張る所存で
 あります。

さて、最近では医療を取
 り巻く環境はあまり芳しく
 ありません。医療を提供す
 る側には、慢性的な医師の
 不足と構造的な赤字体質が
 あり、医療を受ける側とし
 ては社会保険の3割負担、
 高齢者の1割自己負担の導
 入による医療費の増加など
 があります。

当院は光町・横芝町・野
 栄町の構成3町による組合
 立病院であります。来院さ
 れる患者さんも9割が構成
 3町の住民です。この地域
 の医療を担うべく開設され
 た当院としては日常の一般
 外来、夜間の救急外来を行
 い、休日診療は八匠医師会
 と連携して行っています。
 入院に関しては3年前より
 急性期の一般病床70床と、
 療養病床として医療療養20

床、介護療養10床の構成に
 なっています。

以前は当院は入院患者の
 減少によりベット稼働率が
 60%以下のことがあり、多
 額の赤字を抱えていました。
 1年半前に副院長として当
 院に赴任してから入院患者
 の増加を計画してきました。

外来救急を積極的に診察す
 ることは当然として、旭中
 央病院や八日市場市民病院
 に入院している構成3町の
 患者さんを積極的に当院に
 転院していただき、家族の
 方の便宜を図り、慣れ親し
 んだ環境に患者さんを迎え
 ることに努めました。現在
 ではベッド稼働率も70%を
 超えて赤字も徐々に縮小傾
 向にあります。さらに、最
 近の高齢化に伴う寝たきり
 患者さんの増加や慢性疾患
 で長期に入院の必要な患者
 さんの増加がみられています。
 ですので、今年8月までの病
 床区分の明確化に併せて、
 療養病床の増加を計画して
 おり、より地域住民のニー
 ズに合った病棟構成が出来
 るものと思っています。
 医療の進歩にはめざまし

いものがあります。急性期
 の疾患に関しては適切な診
 断と治療が要求されます。

当院でも内科・外科・整
 形外科・産婦人科の常勤医
 が日々外来・入院患者さん
 に対して最先端の知識を持っ
 て治療に当たっています。

また、町と連携して地域
 住民の健康増進・疾病の予
 防・早期発見のための活動
 も行っています。

高齢化社会の到来により
 高血圧や糖尿病に代表され
 る生活習慣病が増加してい
 ます。その結果、脳梗塞や
 心筋梗塞を合併して長期の
 療養が必要となるケースが
 増えています。当院では地
 域の開業の先生方及び町や
 保健所等の行政の方々と連
 携して適切な医療を提供し
 ます。患者さんや家族が希
 望すれば在宅のまままで訪問
 診療を行い、長期の入院に
 対応して医療と介護の療養
 病床があります。

「病める者に優しい医療
 を提供する事」を当院の理
 念として、地域医療活動の
 中心を担う使命感に燃えて
 います。